

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

令和2年度(公表:令和3年3月26日)

事業所名 タイムこどもデイサービスゆっく

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	27%	64%	9%	パーテーションを置いて工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	90%	10%	0%	1対1の配置。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	33%	17%	玄関がバリアフリーにはなっていないが、台を置いたりして工夫している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	ゆっく会議を月2回行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	91%	9%	0%	保護者の意向に添うよう会議等で話し合っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	通信、ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	80%	10%	10%	法人第三者委員が行っている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	82%	0%	18%	会議での研修を行っている。また、外部研修に職員は参加している。(今年はオンライン)
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	会議で話し合い計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	90%	0%	10%	相談支援のものを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	会議で話し合っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	90%	0%	10%	季節の行事、製作をしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	0%	20%	長期休暇の時はイベントやデイ合同行事をできるようにしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	91%	9%	0%	個別の療育・集団遊びの計画をしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	73%	0%	27%	開始前には打ち合わせ出来ないが、伝達事項は知らせ共有している。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	73%	0%	27%	気付いた点は共有している。送迎があるのでその日ではなく週ごとにミーティングを開いている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	チェックリストや活動報告書に記録をつけている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	91%	0%	9%	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	82%	9%	18%	毎年4月にガイドラインの勉強会を行い、個別支援・プログラムに生かしている。
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	82%	0%	18%	要請に応じ、サービス担当者会議に児発管が出席している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	90%	0%	10%	送迎時の引き渡しの際に、先生方と情報交換を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	90%	10%	0%	理学・作業療法の先生とも連絡している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	90%	10%	0%	先生方と連絡をとっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	80%	0%	20%	必要に応じ行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	82%	0%	18%	作業療法の先生にアドバイスを受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%	60%	20%	地域児童館へ行っている。コロナの為、今は利用していない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	30%	50%	20%	出席可能なときは管理者・児発管が出席しているが、今年はコロナのためなかった。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	82%	0%	18%	送迎時や面談・保護者会の時に共通理解を図っている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	10%	30%	来年度こそ、ペアレント・トレーニングの研修に参加し、行っていきたい。
保	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	82%	0%	18%	契約時に行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	82%	0%	18%	送迎時、連絡帳・電話などで必要な助言を行っている。また保護者会で行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	20%	20%	保護者会を行っている。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	本部と連携し、迅速に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	ゆっく通信、デイ通信、たいむ通信を発行している
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	会議で話し合い、十分配慮しているつもりである。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	会議で話し合い、全体で共有し行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	70%	30%	0%	今年はコロナで行えなかった。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	策定済みで、事業所に掲示している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	82%	18%	0%	(消防)避難訓練を年2回実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	年4回虐待防止委員会を中心に行うと同時に、ゆっく会議でも話し合っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	保護者に同意書をもらい個別支援計画に記載し、理解を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%	保護者の方に用意してもらったもの以外は食べさせていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	会議で共有している。ヒヤリ・ハット用紙に記入し再発防止策を話し合っている。